あいち青少年赤十字

No.142
令和6年11月発行

日本赤十字社愛知県支部
〒461-8561 名古屋市東区白壁一丁目50番地
TEL(052) 971-1599 FAX(052) 971-1590
ホームページアドレス https://www.jrc.or.jp/chapter/aichi/

人間を救うのは、人間だ。 Our world. Your move.

一緒に考えよう ～今 わたしたちができることを～

すてきカードで全校を笑顔に

豊田市立加納小学校 6年 海老名 至

年５回、全校で友達のいい所やありがとうを伝えるすてきカードを書く活動があり、ＪＲＣ委員はクラスごとに分けて配達しています。５枚たまると校長先生からすてきハート賞をもらいます。

ふだんから人のいい所を探して伝えることは、とてもいい活動だと思います。人に自信を与えることができるので、僕が卒業してからも続けてほしいと考えています。

〈すてきカードをクラスごとにわける活動〉

つながりを大切に

春日井市立押沢台小学校 6年 小倉 咲良

押沢台小学校では、１年生と６年生が協力し、野菜を育てています。６年生が１年生に育て方や収穫の仕方などを教えながら、この活動をしています。

これにより異学年との交流が増え、つながりも多くなると共に、協力することの大切さや教えることの大変さがわかりました。

これからも異学年との交流を大切にし、学校全体のつながりを築いていきたいと思います。

〈育て方のこつの伝授〉

自ら貢献できる人に

新城市立千郷中学校 3年 山﨑 達馬

本校では、「Chisa ボラ（千郷の小さなボランティア）」という活動を行っています。先生だけでなく、地域の方や生徒が企画・募集を行って、学校や地域のためにボランティア活動を行うものです。校内清掃や地域行事の手伝いなどがあり、毎回多くの生徒が参加しています。この活動を通して、より多くの人が誰かのために自ら貢献する経験をし、その喜びを感じてくれるように、この「Chisa ボラ」を続けていきたいです。

〈普段掃除をしない場所の掃除〉

通りすがる人の心に呼びかける

名古屋市立西陵高等学校 3年 服部美加、丸山紀里、山田亜衣梨

猛暑の８月、献血活動に参加しました。血液の使い道、献血には年齢制限があること、安全性の高い献血、献血の種類など、沢山の学びがありました。献血で救われる命がある実感が沸き、心を込めて献血の呼びかけを行うことができました。名古屋駅は忙しい人が多いのか、なかなか立ち止まってくれません。でも、呼びかけによって、その時は献血ができなくても、あとから献血を気にかけたり、献血する人が増えるといいなと思いました。今後は学校全体で献血活動に取り組んでいきたいです。

〈献血活動の様子〉

JRC JUNIOR RED CROSS

人道

岡崎市立豊富小学校 6年 神谷あかり

リーダーシップ研修会で１つ、新たな言葉を知りました。それは、「人道」という言葉です。自分やまわりの人の命と健康を大切にして、こまっている人がいたら、いつでも親切にしてあげようという意味です。その言葉を聞いたとき、「この言葉を大切にしたい」と思いました。

何かにこまっている人は世界中にいっぱいいます。「人道」という言葉を胸に、自分ができるはん囲で、助けていきたいと思いました。

〈他校の児童と話し合いをする様子〉

防災リュックで災害対策

名古屋市立南陽小学校 6年 佐藤 理仁

お母さんが学校でＪＲＣの話を聞いて、避難所体験プログラムをしました。家では、自分の非常持ち出し用リュックに入れる物を考える「やってみよう！親子で防災対策」をしました。入れたい物がたくさんありました。季節によって見直しが必要だと思いました。

南海トラフ地震臨時情報が出たり、台風が連続で来たりして、いつ災害が起きてもおかしくない状況で怖いです。まずは自分がリュックの中の見直しをして災害に備え、ほかの人の手助けができるようにしたいです。

〈避難所体験プログラム〉

災害時を考えて

弥富市立桜小学校 6年 加藤 律帆

オンライン防災集会では、下校中に地震が起きた時にどのように行動すれば安全であるのかを話し合いました。

通学団ごとに集まり、「家と学校の真ん中辺りで地震が起きた時、あなたならどうする？」について話し合い、全体で発表しました。その場で待ち、みんなでシェイクアウトをするという考えや、建物に入って大人に助けを求めるという考えがあり、災害時も助け合って命を守ることが大切であると実感しました。

〈災害時を考えて〉

自信をもてる南中生を増やす

安城市立安城南中学校 2年 山田 実來

私は「良いとこ見つけ」と題し、自分に自信をもって行動できる南中生を増やすことを目標に、相手の良いところをカードに書き、交換し合う活動を行いました。

この活動から、相手の良いところを見つけると、自然と相手について知ることができ、仲が深まっていくということに気付きました。

日頃から良いと思ったことは積極的に伝え合い、南中生全体が今よりも自信をもって行動してほしいです。

〈カード交換の様子〉

支部通信

気づき・考え・実行する
青少年赤十字

〈ゲルの前にてモンゴル赤十字社ユースメンバーと〉

モンゴルの青少年赤十字メンバーとの国際交流

愛知県支部の青少年赤十字は、青少年赤十字の実践目標の一つである「国際理解･親善」の活動の一環として、平成 19 年度から岐阜県支部とともにモンゴル赤十字社のユースメンバーと国際交流を行っています。この取り組みは、愛知県支部の代表的行事の一つですが、これまで新型コロナウイルスの影響でしばらく訪問できませんでした。しかし、今年度、5年ぶりにモンゴル国を訪問し、交流することができました。

今回は愛知県支部と岐阜県支部の中学生と高校生 11 名と引率者６名が、7月 30 日～８月4日に、モンゴル赤十字社のユースメンバー 11 名と交流しました。その時の様子を、写真を通して紹介します。

【主な日程と活動】

- ○7月 31 日（写真①・②） モンゴル赤十字社本部訪問・歓迎会 → バヤンズルフ支部訪問・体験・交流
- ○8月 1日（写真③・④） 観光地訪問 → 交流キャンプ
- ○8月 2日（写真⑤・⑥） スポーツ交流・文化紹介 → ホームステイ
- ○8月 3日（写真⑦・⑧） ウランバートル市内観光・見学 → フェアウエルパーティー（お別れ会）

〈①モンゴル赤十字社本部での歓迎会〉

〈③観光地訪問（チンギスハン騎馬像前）〉

〈⑤スポーツ交流〉

〈⑦ウランバートル市内観光･見学（スフバートル広場）〉

〈②バヤンズルフ支部での演舞〉

〈④キャンプにてレクリエーション交流〉

〈⑥文化紹介〉

〈⑧フェアウエルパーティー（友との別れ）〉

【参加者の声】

私は、今回の青少年赤十字代表団モンゴル派遣を通して、青少年赤十字の目標である「気づき･考え･実行する」ことの大切さを学ぶことができました。

ある施設に入る際、大雨が降っているにもかかわらずモンゴルのメンバーは、自分が濡れながらも私たちが素早く施設に入れるように、ドアを開けて待っていてくれました。

また、派遣中には予定通りにいかないことがありましたが、臨機応変に対応することや、今後の予定を素早く把握して他に伝えることの大切さをメンバーの行動から学びました。

今回の派遣で学んだ数多くのことを今後の生徒会活動や学級活動などに活かしていきたいと思います。